

ご意見募集！

広報誌をより良くしていくために皆様からのご意見を募集しています。ご意見をお送りいただいた方の中から抽選で3名様に日南町の特産品をプレゼントいたします。

送り先：〒689-5292 日南町役場 企画課 広報担当

手紙、はがきに①住所②お名前③電話番号④ご意見・ご感想をご記入の上、企画課まで郵送またはお持ち込みください。皆様からのご意見お待ちしております！（※メールでは受け付けておりませんのでご注意ください。）

今月の
表紙

「伝えつなぐ 300年の歴史」

5月号は日南神楽神光社をご紹介します。

にちなん かぐら じんこうしゃ

日南神楽神光社

日南町の神代神楽は、享保12(1727)年、島根県加茂町の貴船神社に伝承される神事舞が神戸上地区に伝えられた後、備中系神楽が導入され、さらに幕末に来村した松江藩士によって備中系と出雲系の神楽を融合した独自の神楽が創り出されました。

その後、二度に渡り、脚本と衣装が火災に遭う不運に見舞われたことなどがあり、第二次世界大戦中に社中が消滅しましたが、昭和23(1948)年に再結成し、その後衰退したものの、昭和50(1975)年に再々結成されました。昭和52(1977)年には、歴代大夫が口授・口伝えしてきた神代神楽の「舞い方」「言い立て」を後世に残そうと、町内有志が古文書・口述書などを整理して、神代神楽の集大成「日南神楽」を編さんし、社名を日南神楽神光社として現在に至っています。平成13(2001)年には、日南町無形民俗文化財に指定されました。



平成26年 ハワイでの公演



現在は代表の福島怜さんを中心に9名のメンバーで活動し、伝統芸能「日南神楽」の保存・伝承に取り組まれています。これまでにハワイでのイベントに出演するなど、精力的に活動されています。

演目紹介

【大蛇退治】

須佐之男すさのおが高天原から下りてきたところ、老夫婦あしなづち てなづちの足名椎、手名椎に助けを求められた。「8人の娘のうち、1人は病死し、6年のうちに6人を大蛇にとられ、残る1人の稲田姫もじきにとられてしまう」と。須佐之男は「神である自分が人を助けるにはそれなりに理由が必要になる。それでは稲田姫を嫁にくれ。そうすれば、大蛇退治が姉たちの仇を討つことになる」と言った。そして大蛇退治に向かった須佐之男は大蛇を退治し、天叢雲剣あめのむらくものつるぎを大蛇の体内から取り出した。

【国譲り】

経津主ふつぬし、建御雷たけみかづちの両神が大国主おおくにぬしに国をよこせとやってきたが、大国主の子供である建御名方たけみなかたと事代主ことしろぬしが治めているので国は渡せないと断ったところ争いになった。そこに武夷鳥たけひなとりの命が仲裁に入る。大国主と事代主は国を譲ってもいいと承諾したが、建御名方は最後まで反対し、両神と戦うことになった。しかし、建御名方は両神の前に敗れてしまう。建御名方は自分を祀ってくれるなら国譲りを認めておとなしくしてやろうと条件を出した。

